

農協と組合員をつなぐ広報誌

なかしゅんぱつ

謹賀新年



亥


JA中春別

新年号

2019 Vol.492



初春のご祝詞を

申し上げます

新しい年を迎え皆様のご健康と
 多幸を心よりお祈り申し上げます
 今年もよろしくお祈りいたします
 平成三十一年元旦

- | | |
|-------------|-------|
| 代表理事組合長 | 小湊 保 |
| 副組合長理事 | 西川 寛稔 |
| 専務理事 | 佐藤 猛 |
| 常務理事 | 大山 武永 |
| 理 (営農生産委員長) | 藤倉 紀夫 |
| 理 (総務経済委員長) | 望月 英彦 |
| 理事 | 伊藤 一吉 |
| 理事 | 遠藤 均 |
| 理事 | 山崎 浩二 |
| 代表監事 | 紫藤 正幸 |
| 監事 | 荒 青史 |
| 監事 | 原内 修 |
| 他職員 | 一同 |

中春別酪農対策協議会会長
伊藤 一吉 外会員一同

中春別農協青年部部長
野矢 貴志 外部員一同

中春別農協女性部部長
齋藤 道子 外部員一同

中春別農協良質生乳生産
 推進委員会委員長
藤倉 紀夫 外会員一同

中春別農協良質粗飼料生産
 利用対策委員会委員長
山崎 浩二 外会員一同

中春別地域河川流域環境保全
 推進委員会委員長
藤倉 紀夫 外会員一同

中春別乳牛改良同志会会長
竹田 潤 外会員一同

中春別乳牛検定組合組合長
小湊 保 外組合員一同

中春別農協農業後継者対策
 協議会会長
藤倉 紀夫 外会員一同

中春別農協年金友の会会長
高橋 昌晴 外会員一同



新年のごあいさつ

経営基盤の確立と 経営体質の強化に取り組む

中春別農業協同組合 代表理事組合長 小湊 保

明けましておめでとうございます。組合員並びにご家族の皆様には、輝かしい2019年の新年を迎えられたものと謹んでお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国の経済は、設備投資・輸出増が堅調に推移し、外需主導の背景により、雇用・所得環境の改善や個人消費が底堅く継続し、景気回復が順調に進んでいると思われまます。しかしながら、国際経済をはじめ、為替相場・原油価格の動向など、世界経済の不確実性による景気後退のリスクが懸念され、先行きが不透明な状況にあります。

全戸非常用発電機の設置と 営農、生活水の確保

昨年度は、周期的に変動する気象状況のもと、西日本を中心に線状降水帯による記録的な集中豪雨、勢力が衰えることなく上陸した大型台風など、日本各地に甚大な被害をもたらしました。当該地域におきましても、春先は牧草も順調に生育しておりましたが、干ばつ・低温が続き、6月の収穫時期には、長雨により収穫作業が大幅に遅れ、粗飼料の品質低下が懸念され、今後の生乳生産と飼料コスト増の心配があることから、飼養管理の徹底をお願いします。

そのような中、9月6日未明に北海道胆振東部地震が発生し、震源地周辺では家屋の倒壊、山崩れにより、多数の尊い人命が失われるとともに、未曾有の被害

となりました。また、地震発生と同時に、北海道全域がブラックアウトによる停電となり、不安と混乱が生じ、通電までの間、全戸の搾乳を目指し非常用発電機所有者の協力をいただき、殆どの組合員は搾乳する事が出来ましたが、残念ながら一部の組合員においては、容量不足などにより通電まで搾乳をすることが出来ませんでした。改めてご協力いただいた所有者の皆様には、お礼と感謝を申し上げます。この停電のため、乳業工場も稼働する事が出来ず、組合員の皆様に乳等省令に基づき、生乳の廃棄処理にご理解をいただいたところです。

酪畜政策価格は最高水準の単価、 高止まりの好環境

酪農・畜産を取り巻く状況は、昨年度の酪畜政策価格は、加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金単価を合せて10銭引上げの10円66銭となり、TTPP関連対策事業の畜産クラスター関連事業・楽酪事業・楽酪GO事業などが前年を上回る予算が措置され、加えてEPA対策として、国産競争力強化対策が新設されました。また、乳業メーカーとの用途別価格はチーズ単価が引上げとなり、共計のプール乳価はチーズ品質向上対策を含めると、100円超



えとなり、過去最高水準の単価となりました。畜産価格も年末に入り、初妊牛・若牛が弱含みになっていますが、総じて高止まりで好環境の中で推移しております。しかしながら、改革の名のもと、約半世紀以上続いた加工原料乳生産者補給金制度の見直しが行われ、改正畜安法のもとで、生乳流通の新制度が4月1日から施行され、生乳などの需給バランスと酪農経営の安定に資するものか注視し、問題が生じれば提案していかねばなりません。

予算確保された価格対策

2019年度の畜酪価格・政策は、生産者補給金は8銭引上げの8円31銭、集送乳調整金は6銭引上げの2円49銭で、合せて14銭引上げの10円80銭となり、交付対象数量は、据置の340万トんで決定されました。T P P 関連対策、E P A 対策では、畜産クラスター関連事業、国産チーズ競争力強化などは、補正で前年並みに予算措置がされました。さらには、中小酪農経営の強化に向けA L I C 事業予算が拡充し盛り込まれ、国際貿易に対応する国内対策と、生産基盤の弱体化が表面化している中小酪農経営の強化に向け、予算が確保された価格対策となりました。

一方、国際貿易交渉の動向は、既に国会承認されているT P P 11が昨年暮れに発効され、日欧E P A も本年2月1日に発効される見通しとなっており、さら

には両協定の発効後、米国との2国間物品貿易協定が1月中旬以降の交渉入りが予定され、一層注視をすることともに、貿易による国内農畜産物の影響が増す様であれば、食料安全保障の観点からも強い国境措置と対策を一丸となり求めていかねばなりません。また、本年5月までの農協改革集中推進期間が近づいており、総合農協として信用事業継続のため、J A バンク基本方針に沿い、内部統制・体制整備の強化に取り組み、信用事業の継続を進めて参ります。

第10次中期経営計画最終年度

本年度は、第10次中期経営計画の最終年度にあたり、3カ年の検証を行い、昨年夏に実施した組合員の意向調査を踏まえ、地域農業振興計画の一部見直しと、第11次中期経営計画3カ年の策定をいたし、事業展開をして参りますので、組合員の皆様には、改めてご理解とご協力をお願い申し上げます。現在、酪農の生産現場は貿易による不安、生産資材の高止まり、担い手問題など、不透明感と課題はありますが、今日の酪農情勢を好機と捉え、中長期的な視野に立ち、経営基盤の確立と経営体質の強化に前向きな姿勢で取り組んでいただくようお願い申し上げます。

結びに、本年が災害もなく平穏な中で、努力が報われる実り多い1年であり、ますようご祈念申し上げます、新年の挨拶いたします。





新年のご挨拶

平成31年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震により尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、1日も早い、復旧・復興に向け、全力で

その支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところでです。

国際貿易交渉については、9月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組みとともに、「サポーターづくり」

の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆さんのご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この3年間の実践期間のうち、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、今年の干支は己亥(つちのとい)です。亥には、「無病息災」や「安定した状態」で始動を待つ「準備期間」の意味があるとのことであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦勞が報われる実り多い豊穰の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。





新年のご挨拶

将来につながる経営基盤の確立を

中春別酪農対策協議会 会長 伊藤 一吉



新年明けましておめでとうございます。新春を迎え会員とご家族の皆様におかれましては、健やかに平成31年の新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より当会の事業に対してまして特段なるご理解とご協力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の酪農情勢を振り返りますと、平成30年度用途別原料乳価格はチーズ向けが引き上げられ、その他の用途については据え置きとなり、乳質の向上に取り組み、一定の基準をクリアしたチーズ向けに対して1kg当たり12円(最大15円)を交付する対策が新設され、日頃の良質乳生産に対する努力が報われる形となりました。補給金単価につきましては、集送乳調整金と合わせて1kg当たり10円66銭(前年比10銭増)となり、プール乳価は100円時代に突入し、畜産物価格においても初妊牛平均取引価格が90万円を超え、ホルスタインや乳用交雑種についても高値で取引されるなど経営基盤の構築につながる1年であったかと思われ

ます。
平成30年4月より畜安法が改正され恒久法として新たな加工原料乳生産者補給金制度がスタートし、酪農家の二股出荷も可能となりましたが、不公平なデメリットが無いように今後も注視をしていかなければなりません。こうした中、TPP、HEU-EPA、RCEP、TAG(日米二

国間貿易)など、着々と自由貿易の流れは進んでおりますが、意欲を持って営農に傾注出来る環境、施策を引き続き農政に発信していきたいと思

います。
1年の経営の良し悪しを左右する1番草収穫は、春先からの低温、さらには、刈取り適期を目前に天候不順に見舞われ、収穫作業が大幅に遅れたことにより、繊維分が多く栄養価の低い1番草となりました。加えて、2番草収穫も長雨により長期間圃場に入ることができず10月まで作業が遅延し、秋の草地管理作業も大幅に遅れが生じました。そのような中、9月6日未明に北海道胆振東部地震が発生し、震源地近郊では山腹崩壊、農地への土砂流入、畜舎の損壊、断水など、他業種も含め甚大な被害となりました。被災地の皆様方には1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。震源地から離れた道東地方をも含む道内全域が大規模停電に見舞われ、日々の飼養管理や搾乳作業に支障をきたし、自家発電機を融通し合いながら40時間以上に及ぶ停電のなか、不安を抱きながら作業を余儀なくされ、生乳の受け入れ工場も稼働出来ず、止む無く生乳を自家廃棄した悔しさは今でも忘れられません。情報も遮断され先行きの見通しがつかないことが、どれだけ不安なものか思い知らされました。今後は断水時対策を含めた災害への備えや、防災意識の向上に努めていく必要があると思われ

ます。
昨年酪対活動につきましては、7月と11月の2度にわたり農林水産省生産局と意見交換を実施し、合わせて道内選出国会議員への要請活動を行い、環境保全対策や担い手対策、畜産クラスター関連事業など、生産者の声を直接届け、施策提案を積極的に言いながら情報収集に努めました。11月には道農政部へ出向き、中司道議と道農政部との意見交換を行い、精力的に活動させていただきました。消費拡大運動としては、夢都里路クラブ企画で生活クラブ生協の組合員との意見交換を実施し、女性部、青年部の消費拡大運動に協賛させていただきました。

今後は、世界基準の自由貿易の流れや農業全体の構造改革が求められ、不透明で予断を許さない状況が見込まれますが、恵まれた広大な草地の優位性を活かして良質粗飼料の確保、良質生乳生産に努め、調和の取れた「人・牛・飼料」作りに邁進することが未来ある地域づくりへ繋がるものだと思います。

本年も、地域が抱える諸問題が少しでも解消されるよう、各関係団体と連携を図りながら継続的な運動を展開して参りたいと思っております。会員並びにご家族の皆様には、今後とも理解とご協力をお願いいたしますと共に、ご健勝で実りのある一年でありますよう心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

青年部新年のご挨拶



青年部農協別春中 部長 野矢 貴志

新年あけましておめでと
うございます。

当青年部活動に対しまして組合員皆様をはじめ農協や関係機関の皆様には日頃よりご理解とご協力を承り厚く御礼申し上げます。昨年を振り返りますと牧草収穫時期における長雨や

未来を見据え、若き力の結集を!!

日照不足から牧草の成長も芳しくなく、収量・品質ともに不安の残る結果となり、また道内全域を襲った「ブラックアウト」の影響により、過去経験したことのない被害を受けた1年となりました。そのような状況下の中、青年部では、中春別の小・中学生を対象に募集した標語のロールバックメッセージ作成、道東あさひ農協青年部との合同消費拡大企画「夏の

牛乳消費大作戦」は昨年と同様に野付半島ネイチャーセンターと道の駅「摩周温泉」の2カ所で乳製品・ミルクランドグッズの配布を実施いたしました。事業終了後には2JA青年部で親睦会を行い、盟友間の交流をより強く図りました。10月には、青年部音楽交流イベント「略音」を通じて盟友同士や異業種の方々と交流を図るなど、様々な事業に取り組んで参

りました。
また、昨年に続き中春別小学校1・2年生の合同親子レクリエーションへ、アイスクリーム作りの講師として参加させていただき、昨年とは内容の異なった食・農教育活動に取り組み、大変貴重な体験を積ませていただきました。恒例となりました青年部・女性部合同でのお中元・お歳暮ギフトも多数のご注文をいただき皆様のご協力を心より感謝いたします。平成30事業年度も残すと

ころ3カ月となりました。青年部一同、これからも一層気を引き締めて各活動に取り組みで参りますので、今後ともご指導の程お願い申し上げます。新年の挨拶とかえさせていただきます。



女性部新年のご挨拶



女性部農協別春中 部長 藤 道子

新年あけましておめでと
うございます。ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎える事と謹んでお慶び申し上げます。

日頃より女性部活動に對しましては、農協をはじめ、各関係機関の皆様には多大なるご理解ご協力を賜

女性パワーを発揮し、厳しい時代を乗り越えよう

り厚く御礼申し上げます。昨年も天候不順により、台風が何度も日本を駆けめぐり、西日本豪雨による水害など驚くことが多くありました。

道東では春先からの日照不足と低温、6月中旬からの多雨により、一番草の刈り遅れが生じ、収穫が懸念されました。また、胆振東部での震度7の地震による「ブラックアウト」なる状況が発生。大規模な停電と

なり、電気がいつ付くのかと不安がつのりました。つくづく万が一に備えて、準備することはとても大事だと体感しました。

女性部活動におきましては、牛乳乳製品の消費拡大運動、青年部とのお中元、お歳暮作り、共進会などでお好評のミルク豚汁などの各行事活動をこなし、花寄せ植え、花壇作り、お菓子作りなどをいたしました。研修旅行では、沖縄県の

なんじよう牧場を視察いたしました。牛舎2棟で育成牛含めて130頭程の規模です。沖縄では、住宅進出が進み、糞尿を直接畑に施肥する処理が難しいため、酪農家にとって糞尿処理は大きな課題だそうです。なんじよう牧場では堆肥を乾燥施設で乾燥させ、良質な完熟堆肥を製造し、4kg袋にして、ホームセンターなどに販売しているそうです。乳価は132円とうか

がい、高いことに驚きました。

私達、女性部は今後も幅広く交流を深め、女性パワーを発揮し、厳しい時代を乗り越えることのできるJA女性組織を目指して取り組んで参りたいと思っております。本年もより一層活発な組織活動を展開して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

強い酪農経営を目指し

中春別乳牛改良同志会 会長 竹田 潤

2019年、新年を迎えるにあたり日頃より格段のご理解、ご協力、ご指導を賜りました皆様へ謹んでお慶び申し上げます。

また、当同志会事業推進につきまして農協をはじめ、各関係諸機関の皆様にご多大なるご協力をいただき、役員、会員一同、心より感謝申し上げます。

「平成」最後の年は、1番草収穫時にかけて天候に恵まれず例年よりも収穫が大幅に遅れ、粗飼料の成分などに不安が残ります。9月には北海道胆振東部地震の発生に伴う全道規模での大停電が発生し、酪農主産地北海道に経済的ダメージが大きくありました。被災地の皆様方には1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日々の酪農経営におきましては昨年引き続き乳価、個体販売ともに高水準で推移しており、今後このような状況が恒久的に続くことを望むところであります。我々同志会は日々変化していく情勢でも強く安定した酪農経営を図るためホルスタインの改良技術、飼養管理技術などのさらなる研鑽

と探求を目的に精力的に活動して参りました。

昨年の事業として、会員の更なる知識・技術向上を目的に「女性視察研修」、「酪農講習会」、「酪農視察研修」の開催、多くの組合員や地域の皆様にもシヨウや乳牛改良に触れ、興味を持っていただけるよう組合日より紙面上で「ホルスタイン写真コンテスト」を開催いたしました。また、北海道、管内各協議会事業にも精力的に参加し、多くの会員が乳牛改良の知識、技術を深めて参りました。そのような活動が実を結び、管内・全道の各種シヨウや共進会において中春別ホルスタインが活躍しました。日々の改良の成果と致しませんが、累計235頭を6頭が獲得し、累計235頭を数えております。

本年も乳牛改良と酪農経営を融合し、「中春別」に根差した活動を展開して参りますので、組合員・農協・各関係諸機関の皆様におかれましては変わらぬご理解とお力添えを節にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



平成30年度 新規EX獲得牛 累計235頭

EX-90
5-05

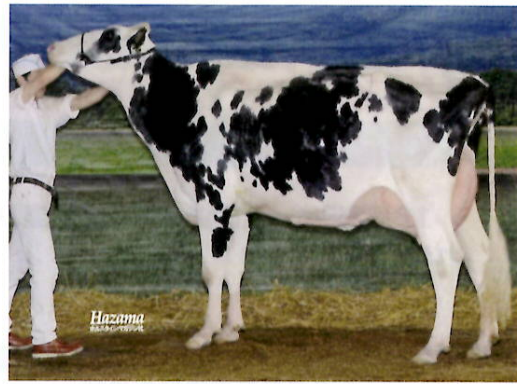


ライプリー スポツテイ スカイウインド

H25.1.8 生
4-01 292 M9,526 kg F4.3% P3.4% SNF8.9%
父：ジレット ウインドブルック ET
母：ライプリー スポツテイ スカイ フェーム

所有者 山田 光男

EX-90
4-05

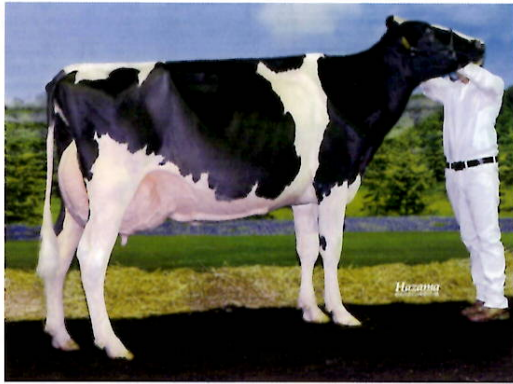


セイコー ロクセツト スタンドアウト

H25.12.30 生
2-02 305 M9,310 kg F3.2% P3.1% SNF8.7%
父：レーガングレスト S ブラックストーン ET
母：セイコー ロクセツト ネイビー

所有者 宗像 卓朗

EX-90
4-11



プロミネンス パラゴン クリステイーナ アイオン

H25.12.14 生
3-03 305 M11,185 kg F4.3% P3.1% SNF8.4%
父：ミッドフィールド CCM アイオン
母：サンファーム パラゴン FBI クリスタル

所有者 寺澤 佳吾

EX-90
7-01



プレザント ジャツキー クリス ファイバー

H23.10.26 生
4-04 305 M10,228 kg F3.7% P3.6% SNF9.1%
父：クラックホーム ファイバー ET
母：プレザント ジャツキー クリスマス ターハム

所有者 中西 貴司

EX-90
5-07
2代EX



プレステージ ラスト チョイス ET

H25.4.14 生
4-01 298 M9,960 kg F4.6% P3.4% SNF8.8%
父：ゴールドデンオークス ST アレキサンダー ET
母：プレステージ ラスト チャンス ET EX-90

所有者 久保 光大

EX-90 6-07 2代EX

YMD モント ゴールド ヒラリー ET

H24.4.20 生
2-11 305 M10,187 kg F3.9% P3.4% SNF8.9%
父：プレイデール ゴールドウイン
母：YMD モント スカイ ルビー ET EX-90

所有者 山田ひろみ

青年部の活動をピックアップ

第67回 全道JA青年部大会

Exciting Innovation ~農力全開!~

12月6日(木)~7日(金)、第67回全道JA青年部大会が札幌パークホテルにて行われました。



当青年部から3人が参加し、全道各地から800人以上が参加した、第67回青年部大会は、スローガンを「Exciting Innovation ~農力全開!~」と題し、盛大に開催されました。

1日目は、「青年の主張」「活動実績発表」が行われ、各地域の代表者が農業に対する熱い思いや、盟友との活

動を通して感じている思い、これからの目標などの発表が行われました。

また、「分科会」では各分野ごとに講師を迎えて講演会が行われており、酪畜部門では「ゲノム解析による乳牛改良について」と題して、アルタジャパン株式会社



の細野淳氏を迎え、ゲノム解析を用いた乳牛改良と今後の展開について講演が行

われました。ゲノム解析により得た乳牛の情報を用いて、酪農経営に活用することで、飼養効率を図ることが目的であり、娘牛の妊娠率や体細胞数、生産寿命など、様々なことが遺伝子レベルで把握でき、これにより、収益に直結する乳牛改良の展開が見込め、農業の近代化を感じられる講演で、青年部員にとっても良い刺激

となりました。

全体懇親会では、「アームレスリング大会」「純農ボーイコンテスト」が行われ、交流を深めました。

2日目には、

農業ジャーナリスト・フリーアナウンサーの小谷あゆみ氏と、HBCアナウンサーの森結有花氏

による、基調講演が行われ、農業に対する思いや酪農体験



を通じて感じたこと、若手農業者に対する応援のメッセージなどといった内容で、盟友皆が元気になる素晴らしい講演会でした。

基調講演後は本大会に移り、表彰式や大会宣言の上程、各地区会長によるスピーチ、ガンパロウ三唱が行われ、盟友の心は一つになりました。

今回の全道大会を通じて得た経験や刺激を活かして、今後の営農・青年部活動がさらに活発になるように努めていきたいと思えます。

中春別小学校低学年、親子レクリエーション「アイスクリーム作り」

アイスクリーム作りの講師に 青年部が二役買いました!

11月20日(火)青年部では中春別小学校で行われる小学校1、2年生の合同親子レクリエーションへ、アイスクリーム作りの講師として参加させていただきました。

開始前は講師、児童とも互いに緊張気味の様子。開始の時間となり、青年部の他にJA中春別オフィシャ

ルマスコットキャラクターの「モーちゃん」が体育館へ入場し、モーちゃんと対面した児童たちは大喜び。青年部が児童の前で作



方のレクチャーをしました。途中では、牛乳や牛についてなどの、酪農に関するクイズを出題し、大きな声で「わかったー!」とたくさん児童たちが手を挙げました。アイスクリームは、牛乳と生クリームを混ぜ合わせ、良く冷えたボウルに移して、かき混ぜることで完成します。勢いよくかき混ぜる青年部員に児童から拍手、声援が送られました。青年部からのレクチャーが終わり、各テーブルに分かれアイスクリーム作りが始まりました。各テーブルそれぞれに青年部員がサ

ポート役として着きました。上手に固まり、アイ



スクリームが完成して、さっそく試食。「おいしい! あまーい!」と喜ぶ声もある中、上手に固まらず苦戦している班には、青年部員が優しくアドバイスをし、サポートをしていました。参加者全員がアイスクリームを完成させ、達成感で笑顔がひろがりました。



アイスクリーム作り後は、参加者全員で記念撮影を行い、給食を食べました。食事後は後片付けをして、最後に青年部より、フアイルやシールなどが入った「ミルクランドグッズ」をプレゼント。児童2人の代表からお礼の言葉が述べられ、レクリエーションを終えました。

去年に続き2回目の食・農教育。青年部としても児童や父兄の皆さんとの交流も図れて、やりがいと達成感が得られました。今後も酪農の魅力発信し、地域に根付いた青年部活動の展開ができればと思います。参加された皆様お疲れ様でした。





白樺の美味しい料理を囲みながらお孫さんの話などで会話が弾み、話しも落ち着いたところで景品を賭けて「値段当て」を開催しました。「最近買物をしていないから金銭感覚がないわ」と言いながら、なかなか惜しい金額差を書いている方もおり、「あら!すごいじゃないの!」



と盛り上がりました。参加した部員全員が景品をゲットしお楽しみ会は終了となりました。

親しい仲間たちと集まり親睦を深めました

女性部木の実部会 お楽しみ会

木の実部会では、11月26日(月)にお楽しみ会を開催しました。

和気あいあい楽しみました

フレッシュミセス部会 クリスマス忘年会

フレッシュミセス部会では、12月5日(水)に中標津町カジュアルキッチンピエトラにてクリスマス忘年会を開催しました。



テーブルいっぱい、子供の話などで終始笑い声が絶えず、楽しい会となりました。プレゼント交換では各自オススメのプレゼントを持参し、くじ引きで抽選、いい香りのするハンドクリームやスヌードなど貰って嬉しいものばかりでした。



平成30年6月に配布されたこの資料は、将来構想の考え方、労働生産性を考慮した農場全体のシステムのあり方、投資するにあたって事前に準備しておくことについて掲載しています。

9月から計4回にわたり概要と活用事例の紹介をしています。

今回は営農改善資料の活用事例について紹介します。

活用事例1 「搾乳牛舎建設の検討」

A農場では経営移譲後、新規投資を考えています。今後の家族の年齢からライフプランを考えて、投資をする際の牛舎形態や労働力、投資額や資金などの話し合いをしました(写真1)。

後継者の声

頭では考えていたが、紙に書くことで搾乳牛舎が具体的になり、家族全員で話し共有の場となりました。

活用したページ

- 1章3 我が家の目標を立ててみよう!(P13～14)
- 1章4 どんな選択肢・解決策があるか(P15～21)

家族全員で話し合っています!



写真1 家族と関係機関で投資計画打合せ中

活用事例2 「経営移譲後の ライフプランの検討」

B農場は近年経営移譲がされた農場です。移譲後直ちに営農計画で自分や家族の年齢からライフプランを考え、長期の計画と今年1年の営農計画を立てました。

経営者の声

今後の労働力が明確になり、営農計画が立てやすくなりました。

活用したページ

- 付録1 ライフプランシート(P付録1)

活用事例3 「育成牛舎建設場所の検討」

C農場では育成牛舎を新築するため、農場の航空写真(1000分の1)に資料の付録を使って、育成牛舎のパーツを配置して、適切な牛舎の向きや位置を検討しました。

経営者の声

これをきっかけに、農場全体のレイアウトや動線を考えることができました。

活用したページ

- 2章3 農場のレイアウトを考える(P41～44)
- 付録2 農場レイアウト施設パーツ(P付録2)

営農改善資料「わたしの牧場計画」には、これから新規投資を行う農場や経営移譲した農場が、農場の将来を考える上で必要な内容が盛り込まれています。改善資料は、章ごとに分かれているため、必要としている部分だけで活用することもできます。

今回計4回のシリーズで紹介しましたが、営農改善資料をとおして農場の将来を考える時に少しでも役立てていただけたら幸いです。





オケとビンゴゲームを行い、カラオケでは皆さん自慢の歌声を披露しました。普段からカラオケをする方以外にも久々に歌ったという方がおりましたが、皆さん本当にお上手で会場を盛り上げていただきました。ビンゴゲームでは参加者全員に当たるよう景品を用意しました。ビンゴが複数人出ると、景品をかけてジャンケンをしたり、良い景品をゆずる方も出たりなど、ビンゴゲームも大変盛り上がりま

多くの人が参加し、 終始賑やかな会となりました

今年度最後の行事

食事が始まるとお寿司や鍋料理を堪能し、お酒やジュースを片手に席を立ち久々に会う仲間と談笑をしていました。余興ではカラ

中春別農協年金友の会（高橋昌晴会長）では、11月29日（木）に毎年お世話になっている中標津町のホテルマルエー温泉俵橋にて、会員52人の参加のもとお楽しみ会を開催しました。



した。
中春別農協年金友の会の行事に初めて参加した方



はすべて終了しましたが、来年度に向けてお楽しみ会やスポーツ交流会、旅行などの行事に参加できるよう体調を崩さずに新しい仲間を集めて、来年度も活発な年金友の会の活動にしていきたいと思います。
また、中春別農協年金友の会にご興味がある方は、中春別農協の金融共済課金融窓口までお越しください。多くの皆さ

久々に参加した方もいて、今回のお楽しみ会は会員が半数以上参加され、終始賑やかな会となりました。
今年度の中春別農協年金友の会の行事



んのお越しをお待ちしております。

平成30年度 別海町文化功労者・別海町スポーツ功労者表彰式

別海町文化奨励賞に選ばれました

別海町文化奨励賞 窪田初音さん

別海町文化奨励賞 中春別小学校リコーダー同好会



別海町文化功労者・別海町スポーツ功労者表彰式が12月4日(火)、別海町役場101・102会議室にて執り行われました。



本賞は、別海町の文化やスポーツ振興において貢献や目まぐるしい成績を残したことに表彰される賞で、今年度の受賞者には15個人3団体が選ばれました。中春別地区からは昨年、第39回全日本リコーダーコンテスト小学生の部五重奏以上の部で「銀賞」を受賞した中春別小学校リコーダー同好会と、同じく昨年の第39回全日本リコーダーコンテスト中学生の部独奏の部

で「銀賞」を受賞した、中春別中学校3年生の窪田初音さんが別海町文化奨励賞に選ばれ、伊藤多加志教育長から賞状と盾が贈呈されました。

中春別地区入賞者
別海町文化奨励賞

中春別中学校3年生
窪田初音(入賞時中学校2年生)

平成30年1月

第32回全道リコーダーコンテスト中学生部門独奏の部「金賞」

平成30年3月

第39回全日本リコーダーコンテスト中学生の部独奏の部「銀賞」

別海町文化奨励賞

中春別小学校リコーダー同好会

中春別中学校1年生
小幡ゆん、乾夏子、小林音桜

牧野かれん、花岡嵩郎(入賞時小学校6年生)

平成30年1月
第32回全道リコーダーコンテスト小学生部門

重曹の部「金賞」
平成30年3月
第39回全日本リコーダーコンテスト小学生の部五重奏以上の部「銀賞」



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々トピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

次世代の大規模農業経営者の育成を目的とした「北海道アグリフードプロジェクト・アカデミー（農業経営塾）」の第3回講座が、受講生10人の参加のもと、11月29日・30日の両日、札幌市内で開講されました。

今回は「人づくり・組織づくり」をテーマに組織開発、労務管理の基礎知識を専門家から学ぶとともに先進事例の紹介もあり、研修のまとめとして、受講生各自が「夢の農業経営」を実現するための「働き方改革実行宣言」を行いました。



JA北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として、今年で8回目となる「農業経営フォーラム」を札幌で開催しました。当日は、(有)トップリバーの嶋崎代表取締役役に「トップリバー流の人材育成」を、志ネットワークの上甲代表に「いま経営者に求められるもの」松下幸之助の人づくり」をテーマに講演頂きました。参加者からは、「人材育成の重要性を理解できた」、「人としてあるべき姿を教わった」など好評をいただきました。

ホクレン

全道のホクレンSSで展開した「2018ラブ&ハートチャリティキャンペーン」に寄せられた募金と、売り上げの一部を合算した総額300万円を、北海道社会福祉協議会へ寄託しました。当キャンペーンは、ホクレンの社会貢献活動「HOKUREN SEEDS PROJECT」の一環として実施しており、道内の児童保育施設約810箇所に、絵本などの購入費用として使用いただく事となっております。



JA共済連北海道

12月24日(月)から1月20日(日)まで、さっぽろ地下歩行空間に、「アンパンマン×こども共済」の巨大壁画広告(全長14.5m)を掲出します(写真はイメージです)。一般のママ達を選ぶ「マザーズセレクション大賞」を受賞した「こども共済」を年末・年始にかけ全道から札幌へ訪れる方々へPRいたします。札幌にお越しの際は、ぜひ地下歩行空間でご覧下さい！

JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご覧下さい。



根釧酪農郷からの出発

2019年度 学生募集

北海道別海高等学校 農業特別専攻科募集案内

入試日程等(1次)募集人員20人 修業年限2年間

- ・願書受付
平成31年1月9日(水)から
平成31年1月22日(火)正午まで
- ・検査日
平成31年2月5日(火)

- ・合格発表
平成31年2月13日(水)
- ・検査内容
作文および面接
- ・願書配布
平成30年11月30日(金)

年度始め納入費

- ・入学金や授業料など
45,550円
- ・後援会・校友会費など
41,550円
- 合計87,100円
- ※平成30年度入学生初年度

農業特別専攻科の特色

- ・18歳以上の酪農を目指す方が、自家や実習先、勤務先で就労・実習を行いながら学校で酪農の理論を学ぶ2年制の過程です。
- ・牧草の収穫時期には、農場【自宅・実習先】で実践を、春・秋・冬には学校に通学して理論を学びます。

実習先農家条件(例)

- ・3食あり、家賃なし、交通費なし、実習代(7~8万程度)支給。
- ・親方家族と生活をシェアするか、実習生用の間借りなど、ご相談に応じます。
- ・正規従業員として法人や農場で働きながら通学可能。

H28年度卒 浜中町
後継者・下元 翔太さん



- ・2年前まで、車で片道40分ほどかけて通学し、専攻科で学びました。学んだスキルを生かし、将来の酪農経営の夢に向かって日々頑張っています。



- ・海外研修(ニュージーランド)が履修出来ません(2年次希望者)。
- ・農業次世代人材投資資金(旧・青年就農給付金)(準備型)制度対象校です(要審査)。

説明会参加・資料請求等・お問い合わせ

別海高校農業特別専攻科まで

〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70-1
FAX.0153-75-2263 Tel.0153-75-2053
URL. <http://bekkai.hokkaido-c.ed.jp>
Email. bekkai-z4@hokkaido-c.ed.jp

●【経営科】校内実績発表大会を開催

12月6日(木)、本校を会場に校内実績発表大会を開催しました。この大会は農業クラブ事業の一つで、各専攻班のプロジェクト学習の成果を発表するものです。北海道開発局根室農業事務所 高田敏彦様、根室農業改良普及センター 嶋野幹夫様、道東あさひ農業協同組合 齋藤哲範様、別海高校農業クラブOB会 小椋忠男様を審査員に迎え、飼料作物研究班、資源循環研究班、畑作園芸研究班、乳製品加工班の4班が発表を行いました。

消化液の有効活用に関する研究やライ麦を利用した高品質粗飼料生産の研究など、どの班も地域農業の課題を取り上げた発表内容となっており、審査員の方からは「地域の特性を活かしたプロジェクトであり、好感が持てた」「発表の練習にさらに力を入れて欲しい」とのアドバイスをいただきました。

今後本校より選抜された専攻班は1月16、17日に美幌町で開催される東北北海道大会へ出場します。結果は以下のとおりです。

【最優秀賞】乳製品加工班

「おいしいチーズを創りたい」

【優秀賞】資源循環班

「消化液を使った水耕栽培への挑戦Part II」

【優秀賞】畑作園芸班

「別高産お菓子の製造に向けて

～誰でも食べられるカボチャクッキー～」

●【経営科】肉製品加工実習を行いました

12月13日(木)別海町農漁村加工体験施設で酪農経営科3年生を対象に、ソーセージの製造実習を実施しました。

校内には肉製品製造設備がないため、肉加工製造工程をきちんと学ぶ、貴重な体験学習の機会となりました。特に羊腸に肉を詰める際は、力の入れ加減によってすぐに破れてしまうなど悪戦苦闘していましたが、ご担当の松原様のアドバイスで実習を進めていくことができました。参加した生徒からは「特に腸詰めは難しかったが、授業で学習したソーセージの製造工程を、実際に経験することで、より深く学ぶことができました」との声が聞かれました。



発表の様子

●【専攻科】修了研究活動発表会実施

11月28日(木)2年目学生による修了研究活動発表会が実施されました。

今年度は、「新しい牧草飼料による品質と嗜好性の検証」、「育成牛の発育調査」と題して2課題の発表がありました。



学生発表の様子

1つめの課題では自家牧場採草地での土壌分析、牧草収穫後にラップサイレージに調製したものを、専攻科ケルダール分析装置により窒素定量(粗タンパク質定量換算)を実施し、その他試験区と対照区における喰い込み、残滓量より給与調査、嗜好性を検証し課題結果を発表しました。2つめの課題では育成牛の発育向上を目的とし、出生後2～6カ月齢における給与管理において添加剤を給与し、ルーメン内微生物を活性化させ、「育成牛の肋の閉帳」「粗飼料吸収率向上」にどのような良い影響があるのか、育成牛の生育調査を実施し効果を検証・発表しました。

関係機関から当日来校して頂いた5名の講師の先生より、様々な視点から助言やご意見を頂きました。専攻科を修了してからもご助言いただいたことを参考に、今後の経営改善に継続して取り組んでほしいと思います。また、今回ニュージーランド研修の為発表しなかった4人も、修了研究活動について取り組んできた成果を報告書にまとめる予定です。

●【専攻科】根室管内青年農業者会議へ参加

12月5日(木)に酪農試験場にて根室管内4Hクラブ連絡協議会・北海道根室振興局主催の第44回根室管内青年農業者会議が開催され、学生8人



アグリメッセージ発表の様子

が参加しました。この会議は、管内農業の担い手として実践活動を行っている青年農業者が、実践活動を通じて身につけた知識や技術の交換を行い、相互の交流を深める会議です。

アグリメッセージ部門では、1年目学生の古谷吹雪さんが「戻れ若者!酪農王国別海へ!!」と題し発表しました。現在は新規就農した両親と共に酪農をしています。地域での後継者や担い手が不足していること、地域での活動を含め問題提起をし、意見を発表していました。

結果は堂々の最優秀賞となりました。また、参加学生は4Hクラブ員の発表を聴衆することで、積極的に活動内容について質問し、今後の研究活動の参考にしたりと、経営改善の一助となるヒントを見つかり、今後の糧となった会議となりました。



ひと足早い
クリスマスプレゼント
ミルク王国の
国王が訪問

認定こども園中春別保育園と豊原へきち保育園に12月13日(木)、ミルク王国の国王が訪れ、少し早めのクリスマスプレゼントが贈られ、毎年恒例の保育園への訪問に、園児たちは嬉しそうにしていました。質問タイムになると大きく手をあげ元気いっぱい質問をしました。「好きなジュースは？」と質問すると「りんごのジュースが好きだよ」と答え、質問した園児は「わたしもりんごジュースが好き！」



と嬉しそうにしていました。質問が終わると、国王から牛に關する話があり、「子供の牛は小さいうちにいっぱい撫でてやると大きくなっても静かで大人しい牛になるんだよ」と園児たちに説明をし、園児たちは「知らなかったー!!」と元気に答えていました。国王からクリスマスプレゼントとヨーグルトを受け取った園児たちは大喜びで、最後に国王と一緒に集合写真を撮り、園児たちから大きな声で「ありがとうございますー」と元気よくお礼をする。外は寒くて滑るから転んだり、風邪ひいたりしないように気を付けてね」と国王から優しい言葉がかけられ王国へ戻られました。



11月 乳質乳価一覧表

(単位:円/)

11月分乳代支払単価

		単価	算出基礎	支払乳価	前年同期	差	
乳脂肪分		932.069		37.58	37.50	0.08	
無脂乳固形分		591.994		52.14	51.83	0.31	
生産者補給金		5.9343		5.93			
集送乳調整金		1.7522		1.75			
補給金合計		7.6865		7.68	7.84	-0.16	
乳質単価	生菌数	ランク1	2	300,009,900.6kg	3.77	3.75	0.02
			0	6,720,013.8kg			
			-3	93,578.0kg			
	体細胞数	ランク1	2	272,095,428.3kg			
		ランク2	1	18,402,973.7kg			
	ランク3	-2	3,483,000.3kg				
乳製品向原料確保奨励金					0.32	-0.32	
合計				101.17	101.24	-0.07	

項目	単価(円)/(kg) %	
乳脂肪分①	37円58銭	
無脂乳固形分②	52円14銭	
生産者補給金③	5円93銭	
集送乳調整金④	1円75銭	
脂肪率	全道	4.03%
	農協	4.13%
無脂固形分率	全道	8.81%
	農協	8.76%
成分乳価	全道	97円40銭
①+②+③+④=⑤	農協	97円98銭
乳質乳価⑥	全道	3円77銭
	農協	3円72銭
乳代合計	全道	101円17銭
	農協	101円70銭
⑤+⑥	差異	0円53銭

INFORMATION

農事組合法人 中春ミルクファームを解散 しました

平成7年9月12日設立後、遊休農地及び離農跡地を、中春ミルクファームを通じて処理を行い担い手の確保と地域の生産性の維持に努めて参りました。

平成28年10月、(株)なかしゅんべつ未来牧場が中春ミルクファームの目的を引き継ぐ形で設立したことから、当初の役割を終えたという事で、昨年7月13日の臨時総会で発展的な解散を決議し、9月26日付で解散となりましたことを報告いたします。



根室北部消防事務組合から第1号の交付を受けました

根室北部消防事務組合消防団協力事業所表示証交付式

根室北部消防事務組合消防本部会議室(中標津消防署会議室)にて、12月3日(日)消防団協力事業所表示証の交付式が執り行われ、西川副組合長が出席し、西村組合長より交付を受けました。

消防団協力事業所表示制度とは平成18年に総務省消防庁から消防団活動の活性化のために制定された制度で、根室北部消防事務組合では平成19年4月1日から本制度を導入しております。

事業所に勤めている職員から消防団員を出して活動し、消防の基準をクリアした事業所が消防団協力事業所として表示証の交付を受けられ、根

JA中春別オリジナル商品第3弾! 「スイートポテト販売開始」

当JAの生乳を使用したバター、牛乳で作った「スイートポテト」が完成しました。別海乳業興社(株)の協力を得て、札幌のスイーツの名店「わらく堂」に製造依頼をしました。

乳はた餃子、ミルクロールケーキ同様に、当JAオリジナル商品としてご愛顧、お買い求めよろしくお願ひします。



(バター風味豊かなカスタード入り)

800円税込

(Aコープ中春別店で販売中)



室北部消防事務組合においてJA中春別が第1号の交付となりました。

交付後、西川副組合長は西村組合長とこれからの消防団のあり方や、今後の酪農情勢についてなど広く意見を交わしました。

関連会社より新年のご挨拶

謹賀新年

旧年中は格別のお引立を賜り
厚く御礼申し上げます
本年もご愛顧の程お願い申し上げます
平成三十一年元旦

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます
平成31年 元旦



代表取締役 小湊 保

別海町中春別南町3番地 TEL(0153)76-2117・FAX(0153)76-2278

旧年中は何かとお世話になりました
本年もどうぞよろしくお願ひいたします
平成31年 元旦



代表取締役 小湊 保

別海町中春別南町3番地 TEL(0153)76-2861・FAX(0153)76-2865

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます
平成31年 元旦



別海町中春別南町3番地 中春別農業協同組合2階 TEL・FAX(0153)76-3383

旧年中は何かとお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします
平成31年 元旦



代表取締役 小湊 保

酪農研修センター 別海町中春別170-1 TEL(0153)76-1230・FAX(0153)76-1232

全酪連育成センター 別海町中春別131-42 TEL(0153)76-1877・FAX(0153)76-1877

共和育成センター 別海町中春別115-7 TEL(0153)76-2040・FAX(0153)76-2016



「十二支・亥の由来」

亥年は、十二支の最後の年です。

十二支を植物に例えると、前年の戌年でたわわに実った果実が種子となり、エネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をするという意味の年です。

また、猪の肉には万病予防の効能があると信じられていることから、無病息災の意味が生じました。また、猪の猪突猛進な性質から、勇気と冒険の象徴ともされています。

子年から始まった一つの流れが、亥年でいったん終わりを告げる年でもあります。次の始まりに向けて新たなエネルギーを蓄える年でもあります。

編集後記

組合員の皆様並びにご家族の皆さま新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新春をお迎えの事と謹んでお慶び申し上げます。

組合員、関係機関の皆様におかれましては日頃よりご指導ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は組合だより「なかしゅんべつ」をご愛読いただき、また、取材にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

写真や記事の作成の技術向上を図りながら、本年も皆様に楽しんで読んでいただける「農協と組合員をつなぐ広報誌づくり」を目指しておりますので、取材の際にはご協力の程宜しくお願いいたします。また、組合員の広場では習字や俳句、短歌、絵画、写真など多数の作品を募集しておりますので営農振興課・久末までご連絡ください。

昨年の降雪以降、交通事故のニュースをよく見かけます、車の運転と体調管理には十分に気を付けてお過ごしください。

本年が皆様にとってより良い一年となりますようご祈念申し上げます。